

浜嶋です。

おはようございます。

21日のBVS隊隊集会は、今年度最初の参加でした。団行事や地区行事のために参加できませんでした。

ビッグビーバーが上進し、これまでのやり方が変わったな。私自身も今までのやり方ができなかったなと反省しました。

私たちは、スカウトの教育を強く意識してプログラムを行っています。

ボーイスカウトはスカウトの成長のための教育活動ですから、教育的要素が無ければただの遊びになってしまいます。

昨年参加した「ちかいとおきて」の講習では、教育目標を決めてからプログラムを考えるよう指導され、大いに反省し、改善してきました。

保護者のボーイスカウトに対する期待は、子供の成長です。

BVS隊では、保護者が一緒に活動しますから、活動の中で子供の変化を鋭く観察している様子が伺えます。

それだけにスカウトが頑張ったことに対して大きな拍手を頂けます。

リーダーの活動の成果がすぐに評価され、スカウトに拍手が贈られるとうれしくなります。スカウトが大きな声で返事ができた時やゲームがうまくできた時、保護者の拍手は、スカウトの自信を高める効果があります。

リーダーにとってもやり方が評価されたと感じる時であります。

まさに保護者と一体となってスカウトの教育をしているという実感が湧きます。ありがとうございます。

BVS隊は、整列する時にスカウトと指導者が競争することで、スカウトのやる気とスムーズな進行を実現しています。

私は、しばらくやっていなくて忘れていました。一昨年の舎営からやり始めたことで、スカウトは毎回これで速やかに整列しています。

きびきびとした動きになります。

「競争する」というゲームを集合に取り入れて、スカウトの行動を機敏にさせたり、集合を気付かせる教育ノウハウです。

21日は、それぞれ1年進級したスカウトと年長の新しい仲間の隊集会に変わっていました。

まだまだ、開会儀礼でじっと立つことが難しい状況です。この状況を何とかきちっとしたいというスイッチが入りました。

閉会儀礼で、隣にいたビッグビーバーの海翔君に、「じっと立っている競争」をしようかと持ちかけました。

海翔君は黙っていましたが、まっすぐ立ち始めました。私は横で直立不動の姿勢で競争しました。隊長は木の葉章を授与しています。

いつまで持つかないと気にしながら、「ああ、動きたいなあ。我慢できないなあ」と小声で話しかけます。

でも、海翔君は「負けない気持」で黙って立っています。

隊長から「団委員長挨拶です」と言われました。私は海翔君に、「動いていいかな」と聞きました。

「うん」と頷きました。これをずっと眺めていた保護者たちから海翔君に「よくできたね。偉かったね」と声がかかりました。

やればできる。やる気にさせる工夫があればできる。そして、知らないうちに習慣化させてしまうことで、成長していくことになります。

うまくできない様子があれば、指導者は工夫を考えて、うまくできるようにしてあげる。これはコーチングです。

スカウトは一人では解決できません。保護者の言うことも素直に聞きません。指導者が、コーチングによりスカウトの向上を促すのです。

ここで言う教育ノウハウは、訓練ではないですよ。訓練は、祝声や敬礼のやり方を教える明確な目標を実現するための反復練習です。

その訓練のやる気を出させるのは、教育ノウハウです。

訓練だけするのではなく、ゲームの中に祝声を取り入れて実際に使用するのは、教育ノウハウになると思います。

新しい指導者たちは、プログラムを実施することに集中してしまいます。

教育目標をしっかり立てて、実施の準備をきちっと完了して隊集会に臨み、教育目標をプログラムの実施よりも優先して活動をしてほしいと思います。

プログラムが楽しいことは大切な成果ですが、計画した教育目標の成果が得られたかを自己評価してほしいです。

保護者が参加しない隊は、指導者たちが自ら自覚して活動をしてほしいと思います。

隊集会の報告は、活動に参加していない保護者に対する成果の説明です。

どんなプログラムをしたかではなく、プログラムを通じて、

- ・今日は、スカウトは何に挑戦したか
- ・何ができるようになったか
- ・何を考えられるようになったか

- ・何に喜びを感じたか
- ・どんなよいことをしたか
- ・「ちかいとおきて」の中で実現できたこと

などの教育的成果を説明してあげてほしいです。私もそれを聞きたいです。

私の目標と実践

～保護者の理解が深まれば、2団が変わります。全員でスカウトを育てよう～